【解答解説】2018 久留米大医・推薦入試

1

1	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	a	d	b	d	c
2	b	c	g		

2

1	1 番目	3 番目	6 番目	2	1 番目	3 番目	6 番目
	c	d	b		d	c	e
3	1 番目	3 番目	6 番目	4	1 番目	3 番目	6 番目
	c	e	f		b	d	a

(1) c a d f e b

(2) d f c a b e

(3) c a e d b f

(4) b f d c e a

3

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
c	a	b	c	d

4

c	d	e	h	j

5

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
a	b	c	d	b
(6)	(7)	(8)	(9)	(10)
d	c	c	b	d

6

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
c	b	b	b	c

【解説】

1【空所補充・内容一致】

1.

(1) 次の文の this popularity（この人気）から prevalence。this＋名詞は「直前のまとめ表現（抽象化表現）」。なお，第 3 パラグラフ 1 文目の omnipresence（どこにでもあること）の知っていたら，この語を根拠にすることもできる。

・prevalence「普及」

・uniformity「画一性」

・clarity「明確さ，明快さ」

・punctuality「正確さ」

(2) (d)以外未知語のため，一旦無視して(d)のみ検証。use them for reference to get from one place to another とすれば「ある場所から別の場所へ移動するのに参照するためにそれら（スマホ）を使う」となる。

・reference「①言及②参照」

<参考> machination「陰謀」, mediation「調停」, circumference「周囲」

(3) 同パラグラフ 1 文目を見ると，逆接 Yet があり，「別のスマホの主要な機能・役割」についての記述されている。当然 2 文目からはそのさらなる具体的説明が後続する。したがって, 2 文目も空所を含む 3 文目も「主要な役割・機能（＝main function）」に関しての内容である。そう考えると feature 以外に当てはまるものがない。

・feature「特徴」

・occasion「機会」

・occupier「占有者，居住者」

<参考> lacerations「裂傷」

(4) (b)と(c)はひっかけと考えて一旦無視。空所は For example で始まる文の中にあるため, 1 つ前の文の具体例だと分かる。したがって，1 文目を解答の根拠とする。1 文目には「スマホを絶えず利用することには欠点もある」とあり「マイナス」の主張がなされている。当然,. For example で始まる次の文もその具体で「マイナス」情報になるはずである。そう考えると，increase はプラス，abuse はマイナスとなり，答えが abuse だと分かる。

・abuse「①～を乱用する②～を虐待する」

<参考> enrapture「～をうっとりさせる」, encompass「～を包含する」

(5) 直後のセミコロン（ ; ）に注目する。セミコロンは補足説明の機能を持つため，直後の so much so that we feel ~ smartphones（あまりにもそうなので私たちはスマホなしに生活することなんてできないと感じている）をという内容に関連があるの空所。(b)を一旦無視して，あてはまるのは existence しかないだろう。

・resistance「抵抗」
・existence「存在」
・defiance「反抗的態度，無視」
<参考> subsistence「必要最低限の生活」

2.
(a) 第 1 パラグラフより for many decades（何十年も）が不可。just ten years ago としか記述されていない。
(b) in recent years（最近）が第 1 パラグラフに 3 文目に these days（最近）とある。2~3 文目から最近増加していることが読み取れるので正解。
(c) スマホを何のために利用するかは． 第 2～4 パラグラフに記述されているが，重要なものから，暇つぶしのようなつまらないなものまで含まれていることが分かる。menial（単調な）が分かれば，自信を持って答えにできるが，本番では消去法の結果余ったので(c)を答えにするという方針で OK。
(d) 欠点については，第 5 パラグラフに書かれてあるものの，「将来はるかにもっと高価な/犠牲の大きいものになる（will become even more costly in the future）」の記述がない。
(e) shortcomings（欠点）が第 5 パラグラフ 1 文目の drawbacks と対応。「far outweigh their benefits（はるかに利点に勝る）」の記述はない。
(f)「友人とおしゃべりする（chatting with our friends）」は第 4 パラグラフ 1 文目に書かれてあるが，スマホについての記述。選択肢は handheld devices となっているため誤り。
(g) 第 1 パラグラフや最終パラグラフから正解。
(h) disadvantages が (e) と同様 drawbacks と対応。not seem to be any disadvantages だと「全く欠点がない」ことになる。

2【文中整序】
(1)
・同パラグラフ 1 文目に Nonverbal communication とあるため，(d)→(f)決定。なお，同パラグラフ最終文の kind of nonverbal communication も利用可能。
・(a) an important [= a/an＋形容詞] は直後に名詞が必要。(a)→(d)→(f)決定。・(c)can は助動詞のため直後原形。(e)→(b)決定。
・直後の or は，A or B に同方向性の語を並列する。deep feelings と並列できそうなものとしては friendship のみのため，(b)→or deep feelings 決定。
・(c) は is なので，直前に S が必要。Touch is とする。なお，(c)→(a)→(d)の流れば，最終文の are kind of ~も参考にできる。

(2)

・(a)と(f)から, more 原級 than で 2 者比較をする文だと判断。直前にある S の nonverbal communication と対比するものが than 以下に置かれるはず。verbal communication が対比語のため, (a)→(b)→(e)決定。なお, 直前文に比較を使った文があるため, こちらを利用して(a)→(b)→(e)としてもよい。

・more 原級だから (f)→(c)。

・最後に V の is をおき, is often more honest than ~となる。

(3)

・For example, a shrug（例えば, 肩をすくめることは）とあるため, 単数 S の a shrug に対応した形の V を検索。a shrug → supports 決定。

・第 3 パラグラフ 3 文目に nonverbal expressions とあるため, (a)→(e)決定。

・残りの意味から。the verbal expression of the shoulders and hands extended upwards とすれば「上向きに伸ばされた肩や手を言葉で表す表現」となり, 直後でそれが“I don't know”であることが示されている。extended は過去分詞で the shoulders and hands を修飾する。

(4)

・posture は「姿勢」のため, 「体の姿勢」は body posture。(d)→(e)決定。

・「顔の表情」は facial expression のため, (f)→(d)決定。

・(d)の or は, A or B に同方向性の語を並列する。したがって, (f)→(d)→(d)→(e)。

・直前の A とつながるのは名詞のため, 形容詞＋名詞の(b)を続ける。

・can は助動詞のため直後に原形。直後は show になっていルため最後におく。

3【内容一致】

(1) the law for paid leave was enacted in France in 1936 は第 2 パラグラフに記述されている。理由については最終文の「有給休暇には労働環境をよくするために官僚によって提案されている政策に含まれている」とあるため, (c)を答えにする。選択肢の An official は a bureaucrat のパラフレーズ[言い換え]。また, good for workers は本文では具体的に improve working condition と記載されてある。good が improve（～をよくする）と対応している。

(2) is longer に対応する表現が第 3 パラグラフの 1 文目の getting longer。理由については最後の 2 文に次のように記述されている。「1 つの理由は労働をシェアすることである。もし労働時間が短縮したら, より多くの人に労働がシェアされ失業率が下がるかもしれないと政府が考えていた。」以上から, (a)が答えとなる。

(3) spend a holiday が第 4 パラグラフ 2 文目。economically が最終文にあり，2 文目から最終文が「お得に休暇を過ごす方法」が述べられている。(b)の「ディスカウントショップに行くこと」は記述されていない。

(4) 設問の「フランスと日本の有給休暇の取りやすさの比較」については最終パラグラフに記載がある。「日本では従業員が有給休暇をとれないと会社が罰せられないが，フランスでは罰せられる」とあるため，(c)の「フランスには有給休暇を従業員に与える義務がある」と言える。

(5) (a) 第 4 パラグラフ 4 文目（cheap）や最終文（economically）から正しい。

(b) 第 4 パラグラフ 2 文目（to escape from their homeland's cool climate）から，ドイツはイタリアほど暖かくないと言えるため正しい。

(c) 第 3 パラグラフ最終文には，労働時間が短くなれば，失業率が下がるかもしれないことが述べられているため，正解。

(d) 最終パラグラフより，日本での有給休暇は効果的に利用されていないことがヨーロッパ諸国との対比をして述べられている。したがって，誤っている。

4【正誤（文法語法・語彙）】

(c)【品詞】

・suddenly → sudden

副詞は名詞以外を修飾，形容詞は名詞を修飾する。「突然」は「結婚」を修飾するが，副詞の suddenly に名詞 marriage を修飾することはできない。形容詞 sudden にする。

(d)【熟語】

・takes place of → take the place of

take place =「起こる，開催される」

take the place of ~ =「～にとって代わる」

(e)【raise と rise の識別】

・raise → rise

raise は基本他動詞「～を上げる，育てる」（名詞の場合は「昇給」だが出題頻度は非常に低い）。「海の気温上昇」とするには rise（増加，上昇）にする。なお, raise と rise は他動詞か自動詞かの識別問題の方が圧倒的頻度。raise が他動詞，rise が自動詞。

(h)【動名詞・不定詞】

・need to check → need checking / need to be checked

need は動名詞を後続する場合は「受動」, 不定詞を後続する場合は「能動」的な意味になる。

need doing「される必要がある」<do が他動詞でも doing 直後に O 不要>

need to do「する必要がある」<do が他動詞なら do 直後に O 必要>

it needs の it = your car のことなので「あなたの車は修理される必要がある」という意味になる必要がある。以上から to check を checking にするか, 不定詞を用いる場合は受動態にして to be checked とする。

(j)【態】

・was seen → was seen <u>to</u>

see は知覚 V（見る・聞く・感じる系の動詞)。受動態にした場合に, be seen do という形になることは絶対にない。知覚 V O C の C には, do[原形(正式には原形不定詞)], doing[現在分詞], p.p.[過去分詞]の 3 つを置くことができるが, 実は, do の場合に受動態にすると, to do にしなければならないというルールがある。使役 V の make も同様で頻出。make O C[do / p.p.] の C に do の場合に受動態にすると, to do になる。

5【語彙】

(1) 英文全体の意味が「今日の最新式のテレビカメラは旧式モデルと比較すると数個のライトしか（　　）。」になるため, (a)require が答えになる。

・require「～を必要とする, 要求する」

・compel「～を強制する」

・constrain「～を束縛する」

・restrict「～を制限する」

(2) 英文全体の意味が「インフルエンザに対する通常の（　　）は多くの水分を飲むことだ。」になるため, (b)treatment が答えになる。

・cause「原因, ～を引き起こす」

・treatment「治療」

・effect「影響, 効果」

・impediment「妨げ」

(3) (a) during は直後に「(特定の）時」を置くが, 直後に the stockholders（株主）とあるため不可。全体の意味は「利益は通常企業の株主（　　）分配される」だから, （　　）には「の間で」にあたる(c)が答えになる。concerning ≒ about。なお, (d)の in が不可なのは, divide の語法による。divide は分配の「範囲」を指定するのに, 2 者間なら between, 3 者以上なら among を利用する。

(4) 英文全体の意味が「日本の天皇は長く崇高な（　　）を持っている」から，(d)tradition しかない。

・innovation「革新」

・tolerance「寛容さ」

・immediacy「即時性」

・tradition「伝統，しきたり，慣習」

(5) enroll in 学校 =「～に入学する」

・perform「～を行なう」

・sample「～を試食する，抽出する」

<参考>・contrive「～を企む」

(6) allergic reaction で「アレルギー反応」

・anticipation「予期」

・supposition「想定，仮定」

・reaction「反応」

<参考>・coalition「連立政権」

(7) (a)delude「～を惑わす」のため，「映画館が惑わされた」となり不可。同じく，(d)delight「～を喜ばせる」のため，「映画館が喜んだ」という意味になり不可。(c)は demand O to do（O に～するよう求める）の形が基本。受動態にすると，S be demanded to do になり今回の英文の形に合う。(b)は全体の意味から不可。

(8) 英文の意味が「投票用紙が数えられた後, Steve が勝者に（　　）」から, (c)しかない。

・weaken「～を弱める」

・undermine「～を徐々にむしばむ」

・determine「～を決定する」

<参考>bolster「～を勇気づける，支える」

(9) put the money into the (　　)は「金を（　　）に入れる」のため, (b)しかない。

・department「部門」

・account「①口座 ②報告 ③考慮」

・discharge「～を解放する，解雇する」

・arrangement「①手配 ②取り決め ③配置」

(10) 英文全体の意味が「ある物の力を決定するために，その物の質量や速度を（　　）しなければならない」のため, (d)しかない。

・treasure「～を大切にする」

・measure「～を測る，評価する」

<参考>・blemish「(be blemished で) <名声が>傷つけられる」

・skirmish「小競り合いをする」

6【アクセント】

(1) -ental : ental 自体(その中でも e)にアクセントが置かれる。

(2) -ate : 2 つ前の母音にアクセントが置かれる。センター試験，そして，近隣の福岡大でも出題数ランキング第 1 位。

(3) -ous : 2 つ前の母音にアクセントが置かれる。

(4) (3)と同様。

(5) -ic/-ics/-ical/ : 1 つ前の母音にアクセントが置かれる。